

< マッチングシステム構築検討会オブザーバー >

農林水産省 大臣官房新事業・食品産業部 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室

神奈川県環境農政局環境部資源循環推進課

横浜市資源循環局 3R推進課

日本生活協同組合連合会 組織推進本部 社会・地域活動推進部 サステナビリティ推進グループ

パルシステム生活協同組合連合会 地域活動支援室

< マッチングシステム構築検討会開催状況 >

● 7月25日（月） 第1回検討会

今までの振り返りと今年度の計画を説明。システム構築にあたり、課題な部分と、防災備蓄品に注力したシステムとしたいこと報告した。システム運営費とその捻出先など意見交換した。

● 9月28日（水） 第2回検討会

福岡県フードバンク協議会でのマッチングシステム利用状況、フードバンクかながわのシステム状況など報告と共有した。システム構築の支援として富士通Japan社にマネジメント支援をいただくことを報告した。

● 11月1日（水） 第3回検討会

前回よりシステム導入のマネジメント支援に加わっていただいた富士通Japan社よりマッチング作業のフロー、今期の改修ポイントを説明いただいた。ほか、この間の作業進捗状況を共有した。

● 12月8日（木） 第4回検討会

この間すすめた画面の文字修正やアラート機能など、改修を進めている点を説明した。改修のイメージを要件一覧の項目をもとに説明した。要件一覧で改修の優先度を明示、予算内で何を行うかを確認した。実証実験のイメージも伝えた。

● 2月10日（金） 第5回検討会

実証実験の概要説明と気づき、その対応を説明した。またマッチングシステムを実際のサイトに提供者、利用者、管理者のIDでログインし、どのような操作内容となるのか見ていただいた。



当法人による提供いただいた防災備蓄品の輸配送

< 実務者会議 >

検討会と別に当法人とシステム会社で実務者会議を開催した。実務者会議はシステム構築に関する打ち合わせであるが、メールでの連絡とは別に主にオンライン会議でやり取りを行い、課題認識の目線合わせや問題点の説明と対応を協議した。

< 実務者会議メンバー >

富士通Japan株式会社

ピープル・ソフトウェア株式会社

ソレキア株式会社

特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

< 実務者会議日程 >

- 今期開催した実務者会議で、システム会社担当者とマッチングシステムの現状と当法人の使用イメージや実運用との差について説明と意見交換を行った。
- 上記から改修対応の優先度を判断し、今回の修正内容の確定を行った。
9月22(木)、26(月)、28(水)、10月5(水)、6(木)、12(水)、21(金)、26(水)、28(金)
- 実務者会議後期でマッチングシステムの修正作業と修正後の確認を行った。
- また当法人のシステム環境でシステムが動作するよう、セキュリティ対策の適用除外の作業を行った。
- 実証実験での課題や障害について共有し、対策を依頼した。
11月10(木)、15(火)、21(月)、12月6(火)、23(金)、1月13(金)、18(水)、30(金)、2月16(木)

実務者会議は合計18回実施した。

< 実証実験 >

令和3年度までに改修したシステムについて、機能拡充のため今年度のシステム改修を追加施工し、あらためて動作確認も含めて実施した。当法人とシステム会社以外の利用を想定する方にURLとID、パスワードを公開、実際に利用する環境を見ていただいた。

また実証実験にあたり操作マニュアルを作成し配布した。実証実験の内容は以下のとおり。

○ 企業などの食品提供者

- 最初にURLとID、パスワードによるログインができるのかを確認。ログイン後は各社から出されるであろう提供品や過去提供いただいた食品を実際に画面で入力いただいた。
- ログインできない、など情報環境に合わせる対応を行った。入力できないなど担当者の操作方法によるのか、システム側の問題かなど、担当者が困っている箇所の対応を行った。
- システムを運用していただき、事務局やシステム会社が気づかなかった不備や分かりづらい点を確認した。

○ 事務局としての当法人

- 事務局は当法人が担う。事務局環境で企業の入力情報が事務局環境でどう見えるかを確認した。
- 事務局画面の表示や動作の不備を確認し、対応を検討した。
- 入力のメール通知などURL以外の動きを確認した。
- 見え方の不具合についてシステム環境によるものかを検討、対応について検討した。

○ フードバンクなど利用団体

- 最初にURLとID、パスワードで各自のデバイスでログインができるのかを確認した。企業の提供品情報を事務局が発信した際、どのように見えるのか、実際の利用団体に確認いただいた。
- 見え方の不具合についてシステム環境理由かなど原因の考察と対応を検討した。
- 今期では修正できない部分など運用でのカバーを検討した。

実証実験は今年度改修したマッチングシステムを実務者以外に触れていただき、システム環境で不具合がないか、意図しない動きがないか、運用で不具合がないかを実際の画面で確認したことが最大の実施内容となった。

また提供者、事務局、利用団体それぞれでマッチングシステムが導入された後の業務の流れと作業時間、業務負荷の変化の予測を立てていただいた。

実証実験期間中に寄せられた意見や質問から、実証実験後の改修を行わないため、運用でどのようにカバーするかなど検討した。

< 実証実験参加企業、組織、機関 >

農林水産省 関東農政局 経営・事業支援部食品企業課

株式会社横浜岡田屋

テルウェル東日本株式会社

一般社団法人福岡県フードバンク協議会

公益社団法人フードバンクかながわ

特定非営利活動法人ふうどばんく東北AGAIN

特定非営利活動法人フードバンク愛知

特定非営利活動法人フードバンク浜っ子南

特定非営利活動法人報徳食品支援センター

満福こども食堂

< 実証実験期間 >

1月23日（月）～2月3日（金）

< 成果共有会 >

3月20日（月）

関係者を招き3年間のマッチングシステム構築の経緯と成果を報告する。防災備蓄品の活用とコーディネート料の支払いなど、システム活用を説明した。

7. マッチングシステムの概要

＜令和2, 3年度におけるマッチングシステムの開発状況＞

マッチングシステムの開発について、令和2年度は当法人が地域の子ども食堂や困窮者に食品を直接支援する地域のフードバンクへの食支援「ビーバーリンク」での使用を想定してマッチングシステムを試作した。続く令和3年度は規模や形態の異なるフードバンクでの活用と、冷蔵・冷凍・青果など異なる温度帯での使用を想定し改修を行った。

＜令和4年度のマッチングシステム開発のコンセプト＞

令和4年度のマッチングシステム構築作業を開始するにあたり、当法人のこれまでの経験と課題認識をもとに改修項目の優先度と重要度を検討した。当法人の考えた改修項目について、今年度よりプロジェクト支援をいただくこととなった富士通Japan社と検討し改修項目を詰めていった。改修項目のコンセプトは以下であった。

① 防災備蓄品のマッチングを想定

主要な取り扱い食品は防災備蓄品を想定。数量表記や包装の中身など防災備蓄品の取り扱いに必要な項目をイメージした画面内容の整理とする。前年度までに作成した画面で、わかりにくい表記や入力項目で、改修すべき部分を決めて実用的な内容で画面整理することが今回の最重要事項とした。温度帯管理はそれほど必要ない項目として、これ以上の対応は行わないなど、重要な項目だけ改修することとした。

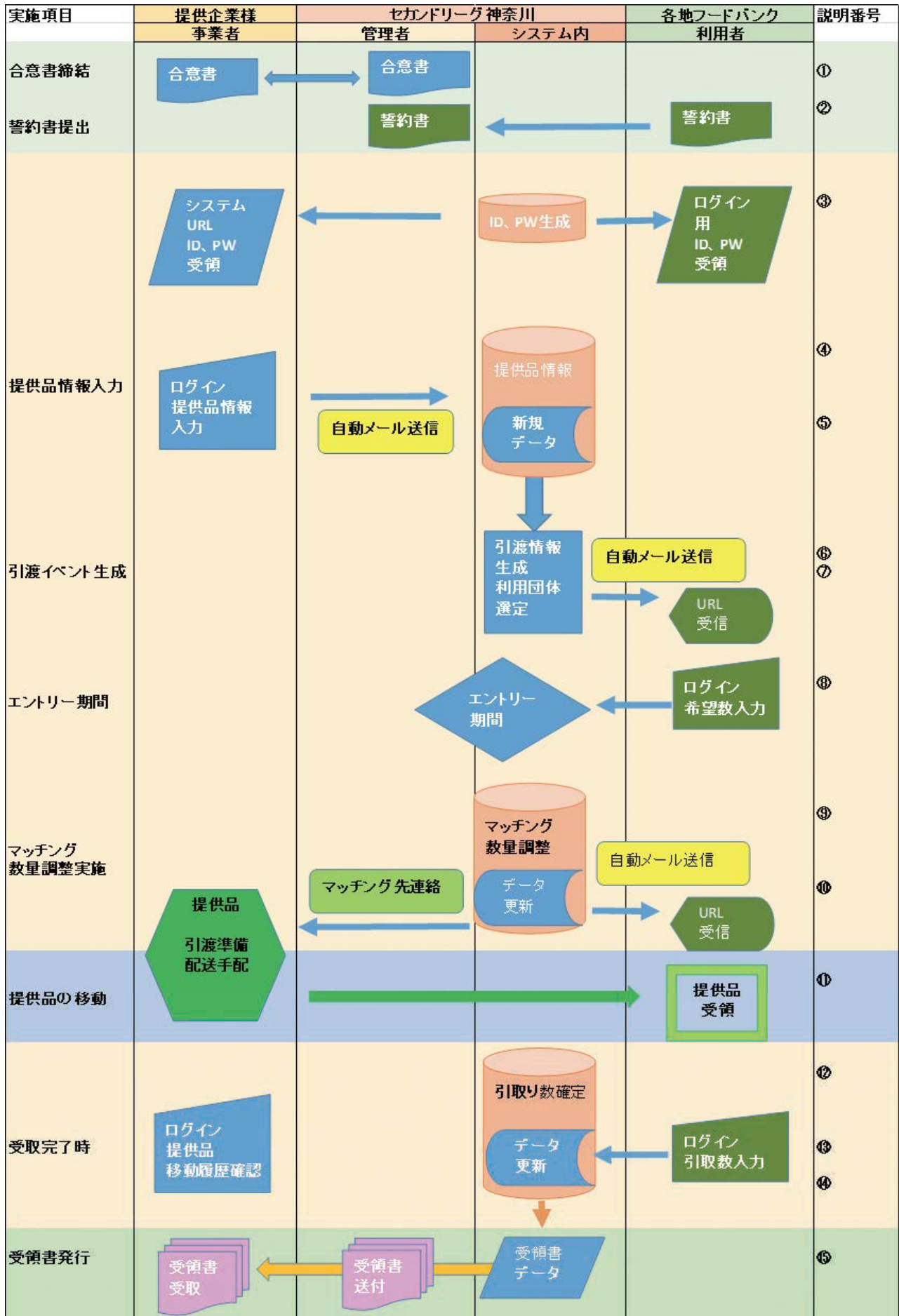
② 各地の中間的なフードバンク団体での使用を想定

小規模な子ども食堂、フードバンクの使用は想定せず、現場で活動するフードバンクや子ども食堂を支援する全国各地の中間的なフードバンク団体での使用を想定する。事務局職員がパソコンで操作することを想定し、モバイル対応は行わずパソコン使用時における利用しやすさ、見やすさに集中して対応する。また操作マニュアルを用意することで利用団体が対応できる範囲であれば、運用での対応をお願いすることとし、必要最小限の改修対応で行うこととした。

③ 当法人が事務局として運営することを想定

システム運用者は当法人が行うことを前提とし、システム改修を行わず担当者の運用で対応できる部分は運用者の操作マニュアルの用意で対応するとし、改修項目は食品提供者と利用団体側に集中し、運営者画面の改修は必要最小限とすることとした。

8. マatchingシステムフロー



< マッチングフロー補足説明 >

- ① 食品寄贈の合意書：提供企業（以下、事業者）と当法人（以下、管理者）で締結。
- ② 食品受領の誓約書：フードバンク団体等（以下、利用者）より食品受領の誓約書を受領。
- ③ 登録用URL,ID,PW：事業者用URL、ID、PW、利用者用ID、PWを生成し発行。
- ④ 提供品の情報：事業者が発行されたURLに提供品の情報を入力し登録。
- ⑤ 自動メール：事業者が提供品の登録が完了すると、システムにデータが登録、自動送信。
- ⑥ 新規データ：登録された情報を利用者用データに加工し、利用先を選定し、データを更新。
- ⑦ 自動メール：利用者に公開された提供品情報が送信。同希望数入力可のデータが自動送信。
- ⑧ 希望数エントリー：利用者が希望数を登録すると、管理者にデータが自動送信。
- ⑨ マッチング：エントリー終了後、希望数を調整し、引渡数の登録後、データが更新。
- ⑩ 自動メール：提供品の引渡数が利用者に自動送信。別途事業者へマッチング先の連絡。
- ⑪ 提供品引き渡し：事業者より利用者へ提供品の引き渡し実施。
- ⑫ 引取数確認：引き渡し終了後、引取数入力可のデータを利用者に自動送信。
- ⑬ 受取数確定：利用者は実際に受け取った数量を登録、保存にて確定。
- ⑭ 移動履歴：事業者は管理者を通じた利用団体の履歴が確認可能。
- ⑮ 受領書：受取数確定により、事業者より受領書を事業者へ発行。

9. 事業者画面

* 合意書を締結後、管理者よりURL、ID、パスワードが付与され、そこからログイン。

(1) トップ画面

➡入力者名が表示されているため、誤入力を防ぐことができる。

事業者画面

(2) 提供寄付品登録

➡提供情報、提供条件のほか、管理者へのコメントによりマッチング開始日や、提供者への情報を入力することで依頼したい内容を登録することができる。

事業者画面